

## 第220回 令和8年4月28日（火）

### 「あってはならない悲劇」

あなたが今ここにいるのは、先祖代々誰も欠けることなく、脈々と命のバトンを受け継いできたからです。もし父や母になるはずだった人が幼くして命を落としてしまったらどうなるのか想像してみてください。

生きるということは楽なことばかりではないでしょう。辛いこともあります。それでも生きていけば様々な選択を自分ですることができます。もしかしたら「生きていて良かった」と思えるような大きな喜びや感動を体験することもできるかもしれません。

イランに落ちたトマホークミサイルは小学校を直撃し、135人の尊い命を奪いました。アメリカの大統領はイランによる誤爆と言っていますし、報道ではアメリカがもともと軍事基地だった小学校を誤って爆撃したと見解を出しています。

真相はわかりませんが、どちらにせよ幼い命を奪ったのは大人です。大人が政治的な対立で小学生の夢も希望も時間も、そして未来に続いたはずの命もすべて奪ってしまいました。「誤って」で赦されるものではありません。そもそも戦争自体が大きな過ちなのですから。

子どもの命を犠牲にした過ちはこれが最初ではないし、戦争を始めれば女性や子どもなど弱者が犠牲になることは火を見るより明らかです。戦争にどんな正当性をつけようとしても子供の命より重いはずがありません。

それを防ぐために法があり、外交があったのではないかと思います。しかしいつの間にか大国が「正しいことならば力を使うことも許される」という理屈によって、過去の帝国主義という亡霊を呼び覚ましてしまいました。100年経って人類は弱肉強食の時代に退化してしまいました。

戦争がどのような形で決着したとしても失われた子どもたちの命は返ってきません。取り返しのつかないこととはまさにこのようなことを指すのだと思います。せめて世界唯一の被爆国である日本はこのような過ちに加担しないよう祈るばかりです。

ミサイルやドローンなど、ますます殺傷に対するハードルが低くなっています。AIに戦争のシミュレーションをさせると高確率で核戦争に突入するそうです。人類というのはどこまで愚かなのか悲しくなる思いがします。

子どもたちの笑顔が守られる世界であることを願っています。